

ハイテム 27年8月に新工場稼働 中国の自社工場を拡充移転



2027年8月の稼働開始を予定しているハイテム新工場の完成イメージ

（株）ハイテム（安田勝彦社長）本社・岐阜県各務原市テクノプラザ210は、中国・天津市の

自社製造工場を移転・拡充する。現在の工場地域が都市計画により商業地

へ指定されたことを受けて、現工場から北方約10キロに位置する国家級北辰工業園区へ移転し、2027年8月の稼働開始を予定している。同社は2008年にサルメット社との提携を終了した後、トヨタ自動車の中国生産拠点が天津市で自社製造工場の操業を開始し、生産ラインの拡充を進めてきた。今回の移転では、手狭となっていた現工場に代わり、約2万平方メートルの余裕ある敷地を確保し、生産能力の強化を図る。

新工場では、アルミ亜鉛ワイヤーからケーシングまでの一貫生産、集約機などの機械組み立てに加

え、これまで協力工場に委託していた鋼板加工の約半分についても内製化し、鋼板コイルから製品までを自動生産できるフ

ォーミング加工や連続プレス加工設備を導入する。日本国内の需要に

応え、これまで協力工場に委託していた鋼板加工の約半分についても内製化し、鋼板コイルから製品までを自動生産できるフ

ォーミング加工や連続プレス加工設備を導入する。日本国内の需要に

応え、これまで協力工場に委託していた鋼板加工の約半分についても内製化し、鋼板コイルから製品までを自動生産できるフ

ォーミング加工や連続プレス加工設備を導入する。日本国内の需要に

2026.07.05

鶏鳴新聞 第2288号

（F&A）需要にも積極的に対応していく。また、ケーシング溶接を含む工場電力の大部分を太陽光発電で賄う計画で、環境負荷の低減と電力コストの低減・長期安定化を図る。

岐阜県の本社工場では、研究開発や製造図面の作成、品質管理を担い、中国の自社工場は製造に専念する体制を堅持する。

工場長をはじめ全員中国人スタッフは、ハイテムの日本的経営理念「会社は生活の基盤」「厳しく楽しく」の継続を徹底する。新工場では緑地整備や食堂の充実など、働く環境の向上も進める。

なお、所要資金は自己資金を中心に、国際協力銀行（JIBC）などの長期資金を活用する。